

日本歯周病学会 第116回 歯科衛生士教育講演会B 報告

1. 研修会名 日本歯周病学会 第116回 歯科衛生士教育講演会B
2. 主催 特定非営利活動法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協力 公益社団法人 茨城県歯科衛生士会
4. 日時 ①2026年7月12日（日）10：00～12：00
②2026年8月26日（水）19：30～21：00
5. 場所 ①茨城県歯科医師会館3階講堂ならびにZoomウェビナーによるライブ配信
②Zoomウェビナーによるライブ配信
6. 演題
 - ①「歯周基本治療を成功に導くセルフケア
～プラークコントロール向上に向けた歯科衛生士の視点と患者支援～」
 - ②「患者を変える、歯科衛生士を成長させる歯周基本治療
～モチベーションを引き出す歯科衛生士の臨床力とSRP～」
7. 講師
 - ①鈴木 瞳（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）
 - ②鎌田征之（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）
8. 教育講演会の内容

①のハイブリッド開催には、会場39名、WEB108名の計147名が参加した。参加者の内訳は、歯周病学会会員40名、日本歯科衛生士会会員67名（うち歯周病学会会員6名）、非会員22名、歯科医師会会員5名、学生13名であり、多くの参加が得られた。

主催者ならびに開催県会からの挨拶の後、鈴木委員が「歯周基本治療を成功に導くセルフケア支援」をテーマに講演を行った。セルフケア継続を阻害する背景要因のアセスメントの重要性や動機づけ面接（MI）を活用した患者支援について解説するとともに、歯科衛生士が患者の伴走者として関わる重要性について、症例を通して紹介した。



（鈴木委員 講演風景）

②の鎌田委員による講演は、別日程でZoomウェビナーによるライブ配信として開催され、平日の夜にもかかわらず60名以上が参加した。「患者を変える、歯科衛生士を成長させる歯周基本治療～モチベーションを引き出す歯科衛生士の臨床力とSRP～」をテーマに、チーム医療による歯周治療の重要性について認定歯科衛生士の症例を交えながら解説いただいた。患者のモチベーションを引き出す工夫や生体反応に応じた歯周治療、歯周基本治療からメンテナンスまで歯科衛生士が担う役割について示された。また、患者に合

わせた歯ブラシ処方やグレーシーキュレットを用いた SRP の基本についても解説いただいた。



(鎌田委員 講演風景)

両講演とも、歯周基本治療における患者支援と歯科衛生士の専門性について理解を深める内容であり、日々の臨床実践に活用できる講演となった。

9. アンケート結果について

アンケート回答者は二日間で延べ 165 名であった。日本歯周病学会会員は 37.6%、日本歯科衛生士会会員は 58.2%であり、20 歳代から 70 歳代以上まで幅広い年代の歯科衛生士が参加していた。また、参加者は茨城県内に加え、東北から九州まで全国各地に及び、Web 開催により広域からの参加が得られた。

日本歯周病学会認定歯科衛生士は 17%であり、未取得者の 31.6%が今後取得予定と回答したことから、本講演会が認定取得への関心喚起につながったことがうかがえた。

受講者からは、「わかりやすく臨床に活かせる」「すぐに実践したい」といった意見が多数寄せられた。第 1 回講演では、行動変容支援やセルフケア支援についての理解が深まり、患者に寄り添うコミュニケーションの重要性を再認識したとの声が多くみられた。第 2 回講演では、歯周基本治療や歯ブラシ処方、SRP・SPT について学びを深め、臨床に役立つ内容として高く評価された。また、両講演を通して歯科衛生士の専門的役割への理解が深まり、学習意欲や認定歯科衛生士取得への意欲向上につながったことがうかがえた。

10. 教育講演会を終えて

今回の教育講演会は、ハイブリッド開催および Web 開催により、全国から幅広い年代の歯科衛生士や学生の参加を得ることができた。アンケートからも、県外参加者や施設勤務・訪問診療に従事する歯科衛生士など、多様な立場の受講者に学習機会を提供できたことがうかがえた。

第 1 回ではセルフケア支援と行動変容、第 2 回では歯周基本治療と SRP の実践をテーマとし、患者支援から臨床技術まで歯科衛生士の役割を総合的に学ぶ機会となった。また、認定歯科衛生士制度への関心向上にも寄与し、今後の学習や資格取得への動機づけにつながったものと考えられる。今後も、歯周基本治療に関する知識・技術の向上に加え、患者支援やコミュニケーションに関する継続的な教育機会を提供していくことが重要である。